

足金は各職場より會費徴收のことに決定し、後引續き新會社成立後に於ける勞働對策協議の結果、生活權確保の爲めには從業員全体の團結を圖り之を打つて一丸とした強力なる單一勞働組合の結成を必要なりとし、幸に右反對同盟會が各職場に亘り全從業員を網羅せられてゐるが故に、此際之を單一勞働組合促進同盟と改稱して全從業員の勞働組合組織に邁進することとなり、直ちに當日の出席者全部を擧げて委員とし準備委員を銓衡せしむることとなつた。

2、單一勞働組合促進同盟

製鐵官民合同反對同盟會を解消し新に設けられた單一勞働組合促進同盟に於ては、七月十一日銓衡委員會開催準備委員銓衡に付協議の結果、右銓衡委員（三十名）並に合同反對同盟の各工場正副統制委員長全部を推薦し其の承認を求むること

となつた。

越へて七月十八日第一回促進同盟準備委員會を開催して、準備委員長に横大路茂氏（鐵聯副會長）並に副準備委員長に中畑新助（同志會）日高政太郎（鐵聯）柴田勇平（中立）の三氏を選任して陣容を整へたのであるが、委員長に選任された横大路茂氏は、一方合同反對同盟委員長としての活動に賛否相半するものあり、且つは政黨關係（舊社民系）を有する爲め、全從業員の大團結を目的とする單一勞働組合結成上に支障不埒との理由で反對意見が出たのであるが、さりとて他に適任者も見當らずして同氏の委員長就任となつたのである。

さてこの對政黨關係は其後の委員會は勿論新組合結成大會に於ても常に議論紛糾の中心點となつたのであつて、單一